

目指す子ども像

『自己実現に向けて、協働的に学び、粘り強く挑戦する子の育成』～9年間を通した系統性ある取組～

重点目標

(1) 自己実現するための基礎学力・思考力育成 (2) 社会性・協調性を持った自律した児童・生徒の育成

本年度の方針

(1) 基礎学力を定着させ、自律的に学習できるような児童・生徒を育成するようにする (2) 規範意識を醸成し、自律した児童・児童・生徒を育成するようにする

質問項目表 (1-20)

児童 回答表 (1-20)

保護者・学校運営協議会 回答表 (1-20)

回答割合表 (1-20)

※単位は%、####は保護者未回答項目

「確かな学力」(アンケート番号①～⑦)

R7年度前期と比較すると、
・児童は、児童は強度の肯定的回答が減少傾向にある。特に「話すこと」については肯定的な回答自体が約10%減少となっている。
・保護者は、肯定的な回答が増加傾向にある。しかし、学力に関する項目で、児童の回答と比較すると低い。

【考察】

- 保護者の強い肯定は増加傾向であることから、授業改善や家庭学習の見える化が一定の信頼につながっていると考える。
●児童の「話すこと(話す・対話する学び)」に関する肯定が低下していることから授、業内発表や対話活動への自己効力感が下がっている可能性があると考え。

【改善に向けて】

- ♪話す力について
「話す力の見える化」によって、子どもの一人一人の自信を育てる。
♪学力向上について
単元の「ゴール」を意識し、毎時間のねらいを達成できる授業づくりを継続して行っていく。

「豊かな心・健やかな体」(アンケート番号⑧～⑮)

R7年度前期と比較すると、
・児童、保護者ともに全体的に強度の肯定的な回答が減少傾向にある。
・児童は、あいさつ、よいところ、粘り強さ、きまり、自治活動は減少している。
・保護者は、よいところは強度の肯定的な回答が減少している。

【考察】

- 多くの設問で、肯定的回答は高い水準を保っていることから、本校が大切にしてきた「すべての子どもをすべての教職員で見守る」という姿勢が、児童・保護者の双方に浸透していると考え。
●児童・保護者ともに強い肯定が広く減少していることから、特に児童側のあいさつ・自己肯定(よいところ)粘り強さ・きまり・自治活動が低下していると考え。

【改善に向けて】

- ♪安全・安心な学校づくりについて
人権教育(ハートフル)を基盤にした「安全・安心な文化づくり」を大切にしていく。
♪自治活動について
子どもたちが主体的に係活動、委員会活動やクラブ活動のデザインを考えていく。

「学校・家庭・地域との連携」(アンケート番号⑯～⑳)

R7年度前期と比較すると、
・児童、保護者ともに全体的に肯定的な回答が増加傾向である。
・児童の「困っていることを先生に相談する」という項目に肯定的な回答の減少が見られる。

【考察】

- 全体として肯定が増加傾向していることから、地域交流PTA行事・ゲストティーチャー等の期待感や満足感があるのではないかと考える。
●児童の「先生に相談」は肯定が低下していることから、連携は強まる一方で、学校内での個別の安心感が課題であると考え。

【改善に向けて】

- ♪保護者との連携
ファミリー担任制といって相談窓口を複数化するだけでなく「相談ルートの明確化」を行い、より密な連携がとれるようにする。
♪生活科・総合的な学習の時間について
育成すべき資質・能力に向けた生活科・総合的な学習の時間の単元構想の見直しと関連単元配列表の再構成を行う。